



佐 々 の 教 育

佐々ならではの特色ある教育環境



佐々町の特色ある教育環境のいくつかをまとめました。

＜令和2年8月改訂版＞

1 学力向上

ここ数年の佐々町の各学校の、全国学力調査の結果は、小学校では全国平均を上回っています。中学校では、ほぼ全国平均程度です。

今後、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、全児童生徒に確かな学力をつけるために、更なる授業改善に取り組んでいきます。

<授業改善>



白と赤の帽子は考えの違いを表します。同じ意見や違う意見を聞きながら自分の考えを深めていきます。主体的・対話的で深い学びを実践します。

<3校共同研究>



佐々の子どもの自己実現を目指し、町内の教職員が「学力向上部会」「生活習慣向上部会」等を組織し研修を行います。

<学力向上支援員>



教員免許所持者を各学校に配置し、授業中の個別指導や少人数授業を行います。小さなつまずきが解消すると、子どもの理解は飛躍的に向上します。

<教員研修会>



町内の3校が授業改善について合同研修を行います。若手もベテランもお互いの考えを出し合い、明日の実践へとつなげていきます。

2 保護者とともにある学校

学校が、保護者と子どもたちとの触れ合いの場となることで保護者の学校理解が深まり、信頼関係できていきます。

保護者も楽しみながら、子どもと活動します

P T Aは、本町最大の「佐々っ子応援団」です。

<親子清掃>



夏休みの終わりに、親子で学校の清掃を行います。草刈り機にトラックとお父さん方も大活躍です。

<通学合宿>



「親父の会」主催で、世知原少年自然の家で4泊5日の通学合宿を行います。勉強に飯ごう炊飯と楽しみながら友情を深めます。

<土曜授業>



土曜日に授業参観を行います。親子で道徳の授業を受けたり、ロードレース大会などで盛り上がります。

<しろうおウォーク>



早春の佐々川沿いの歩道を親子で歩きます。親子で、ただ歩くだけ。でも楽しい行事です。

3 地域とともにある学校

本町の全小中学校は、平成29年10月からコミュニティ・スクールになりました。会議体として学校運営協議会を設置し、学校運営等について、地域の方々と一体となって子どもを育てていきます。

また、活動体として町内の40団体ほどが参加する「佐々っ子応援団」を組織し、子どもの見守りや授業等のサポートをします。

<サポート・ティーチャー>



民生委員さん等の地域の方や、退職校長会による学習のサポートが行われています。

<地域の方々による見守り活動>



毎朝、町内の20か所ほどで、地域の方々による見守り活動が行われています。

<学校運営協議会>



地域や保護者の方々から、学校の運営についての意見をいただきます。地域と共にある学校をめざします。

<家庭科のサポート>



婦人会による家庭科の調理や、裁縫の授業のサポートが行われています。

4 ICTを活用した授業

本町の全小中学校は、平成26年度から全教室に電子黒板を設置するとともに、タブレットを各学校に40台導入しました。さらに、令和2年度中に1人1台のタブレットの導入を行います。

主体的・対話的で深い学びをめざして、授業が大きく変わりつつあります。

＜情報を集める＞



明日の天気を予想する授業です。1人1台のタブレットを使って、まずは情報収集です。

＜自分の考えをまとめる＞



雲の動きや天気図を検索して情報を集め、それぞれが明日の天気を予想します。

＜自分の考えを深める＞



学習グループの中で、集めた資料を元に予想を発表します。予想の根拠を説明するのは難しいものです。

＜考えを共有する＞



学習グループごとに、まとめた考えを電子黒板を使って、学級全体に発表します。

5 各学校の特色ある活動

本町の各小中学校では、学校行事や「総合的な学習の時間」を活用した「佐々ならではの」の特色ある活動が行われています。

＜佐々川学習＞



佐々川を調べます。佐々町の農業・産業・生活の全ては佐々川の豊かな水に支えられているのです。

＜うめぼし作り＞



地域の方のご指導で梅干しと米を作ります。作った米と梅干しで「おにぎり集会」を行います。

＜伝統継承式＞



卒業前に生徒会活動や部活動を、学校の「伝統と誇り」として引き継ぎます。

＜あいさつ運動＞



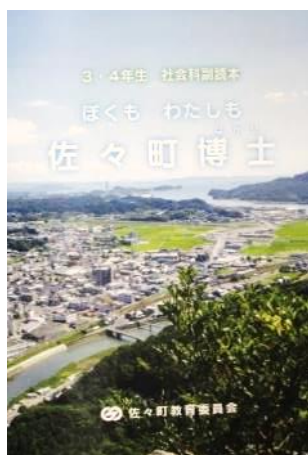
登下校時に、学びの場である学校に一礼をします。

6 佐々で（を）学ぶ

子どもたちの故郷である佐々町は優れた学習材であり、学びの場でもあります。また、佐々で（を）学ぶことは故郷を愛し、自分自身の心の原風景と居場所をつくることにつながります。

佐々の学びが各学校で行われています。

<佐々町博士>



小学校3・4年生で佐々町博士になることをめざして全児童に配布される佐々町の暮らし・歴史・産業等を学ぶ社会科の副読本です。

<地域行事への参加>



学校前の広場で婦人会の方に習った「佐々音頭」を踊ります。鼻高さんも大人気です。

<佐々町探検>



小学校1・2年生が佐々町の暮らしを実際に見学します。佐々町を知るとともに、大人との触れあいの機会となります。

<職場体験>



町内外の40余りの事業所の協力を得て、働くことの意義や大変さを体感します。体験後の子どもの顔はさわやかです。

7 特別支援教育の充実

本町の全小中学校には障害種に応じた特別支援学級を設置するとともに、個別的に学習を進める通級指導教室を設置しています。

また、支援員の配置や佐世保特別支援学校と連携・協働した定期的な研修会の開催による教員の資質向上に取り組んでいます。

<特別支援学級>



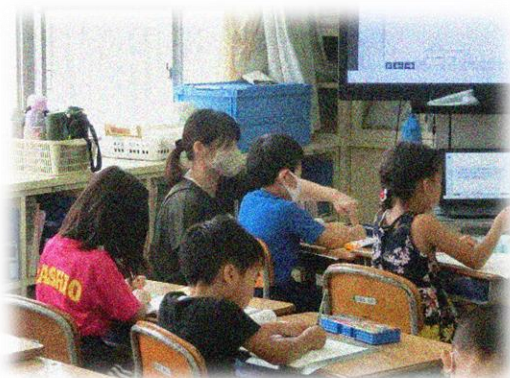
それぞれの特性に応じた教育を少人数の学級で行います。普通学級への交流学习も多く行います。

<通級指導>



普通学級に在籍する、学習等に「困り感」を持つ子どもに対して、週に数回の個別的な指導を行います。

<支援員による学習補助>



普通学級の学習で理解が不十分であったり、つまずいている子どもの学習を補助します。

<特別支援研修会>

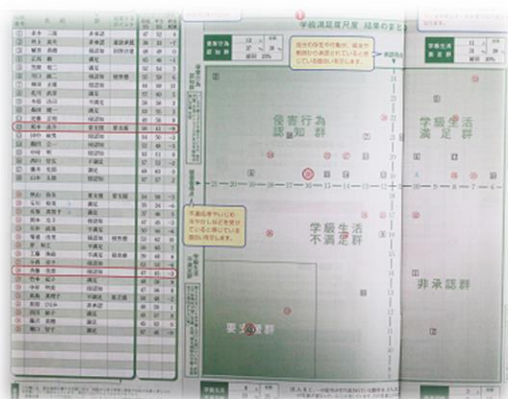


佐世保特別支援学校と連携・協働し、町内の幼・保・小・中・高が参加した合同研修を行います。

8 相談活動の充実

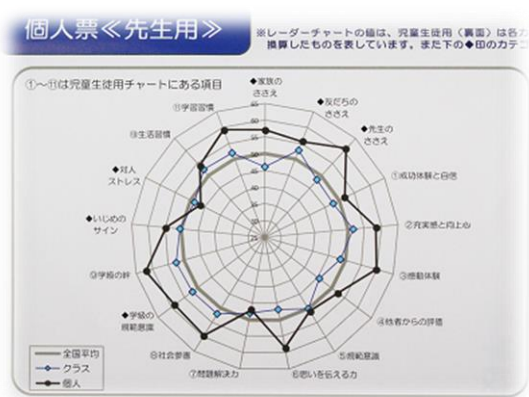
本町の全小中学校では、心理検査及び総合質問紙調査を実施し、早期の相談活動に役立てています。また、心の教室相談員を各校に配置するとともに、心理や福祉の専門家を配置し相談活動の充実を図っています。

＜心理検査＞



学習意欲の低下や不登校やいじめを受けている可能性等を判断するための心理検査を行います。

＜総合質問紙調査＞



自己認識や社会性を個別に評価し、支援や指導に役立てる総合質問紙調査を行います。

＜専門家による相談活動＞



心理の専門家であるスクール・カウンセラーや福祉の専門家であるスクール・ソーシャルワーカーを配置しています。

＜関係機関との連携＞



児童相談所・警察・主任児童委員・町住民福祉課等の関係機関が連携して、課題の解決を図る会議を開催しています。

9 高等学校・県立大学との連携

本町の全小中学校では、近隣の高等学校や県立大学と連携した取組を行っています。平成29年3月、県立大学と佐々町は「包括連携に関する協定」を締結しました。今後も教育分野においても連携を深めていきます。

＜県立大学との連携＞

（夏休み学習会の支援）



県立大学学生による、子どもたちの夏休みの学習の支援（サポート・ティーチャー）を行っています。お兄さん、お姉さんに教わるとよく分かります。

（子ども科学体験講座補助員）



県立大学学生を補助員として、小学生を対象とした子ども科学体験講座を行っています。とても親切に補助をしてもらえます。

＜小中高の連携＞



毎年秋に行われる青少年音楽祭では、町内の小中高校の合同演奏を行います。迫力ある演奏になります。

＜清峰高校との連携＞



清峰高校生が、小学校に来校して読み聞かせを行います。おもしろい話、悲しい話に引きつけられます。

10 佐々っ子を守る

子どもは町の宝です。子どもの安全や安心を守るために、多くの町民が活動しています。佐々町の優しさや温かさに守られて子どもたちは育ちます。

<通学路安全マップ>



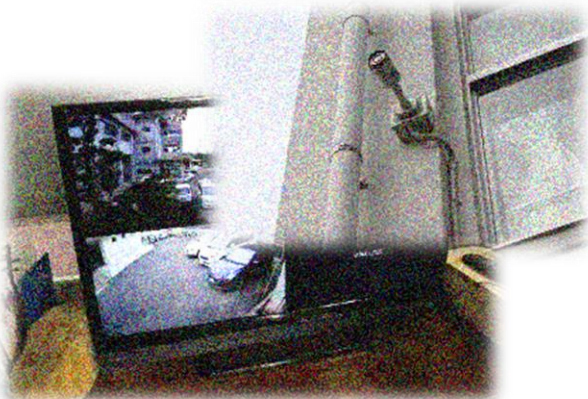
保護者アンケートで指摘された危険箇所を通学路安全対策会議のメンバーで巡回し、通学路安全マップを作成しHPに掲載します。

<子どもを守る活動>



青少年健全育成会による危険箇所標識づくりや毎日の見守り活動など、町内のあちこちで子どもを守る活動がなされています。

<防犯カメラ>



不心得な人がいなければ、防犯装置はいらないはずですが、現実にはそうはいきません。小中学生全員に防犯ブザーも配布しています。

<非行防止対策会議>

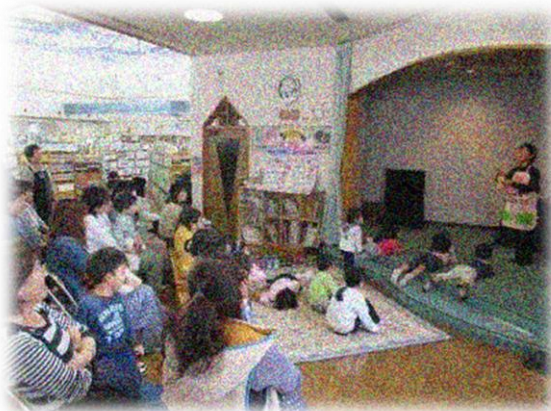


学校、PTA、警察、青少年健全育成会、補導員等の健全育成関係の者が集い、非行防止・健全育成について話合います。

11 佐々っ子土曜学習

子どもたちに豊かな体験を提供する機会として、休日や長期休業中に、各種団体・地域の方々により、小学生を対象とした「佐々っ子土曜学習」を行っています。

＜よっといでお話の世界へ＞



図書ボランティアの会による町立図書館での絵本等の読み聞かせを行っています。

＜佐々っ子スポーツ塾＞



さざ俱樂部による軽運動等を楽しむ「佐々っ子スポーツ塾」を行っています。

＜さざ自然・生物学習教室＞



さざ川のカブトガニを守る会による佐々川の自然を学習材とした生物観察や自然体験等を行っています。

12 さざっ子ワクワクまなびタイム

子どもたちの見聞を広げ、幅広い知識や興味関心を高めるために、休日や長期休業中に「さざっ子ワクワクまなびタイム」を開催しています。毎年、内容を変えた取組を行っています。

<科学体験講座>



高専の先生による科学教室です。科学は、不思議です。理屈を聞くと「なるほど」と思うのですが、やっぱり不思議です。

<謎解きラリー>



地域交流センターのあちこちに「謎」が仕掛けられています。みんなで協力しながら謎を解明していきます。

<お菓子づくり>

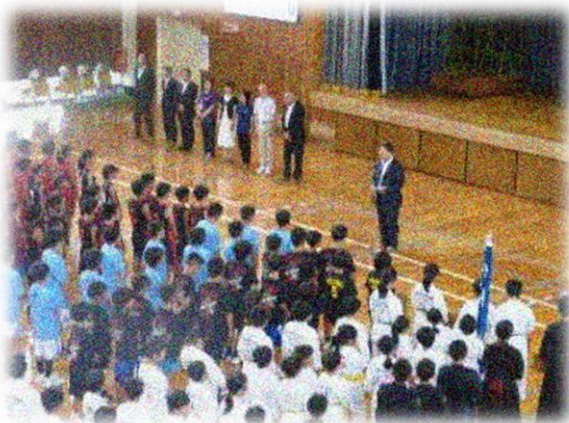


大好きなお菓子を作ります。意外と子どもたちは器用です。時々、失敗して他の班から分けてもらうこともあります。

13 子どもの活動機会の充実

佐々町の魅力の一つは、子どもたちの体験や活動の機会が豊富にあることです。下記以外にも、各地域子ども会による活動、社会福祉協議会による「福祉教室」、各種団体による七夕祭り・夏祭り・綱引き大会などの、子どもの活動の機会が多くあります。

<スポーツ少年団>



各種球技や武道等の13種目のスポーツ少年団の活動が活発に行われています。

<サマーキャンプ>



スポーツ推進委員による町農業体験施設を活用したサマーキャンプを行っています。

<青少年劇場>



隔年ごとに小学校、中学校を対象とした芸術鑑賞を行います。終了後、演技を習うこともあります。

<町施設の活用>



町内の小中学生による「少年の主張大会」を毎年開催します。緊張しながらも堂々と発表します。

14 幼保小中連携の推進

佐々町の教職員の研修機会の確保と小中連携の推進のために3校共同研究を実施しています。

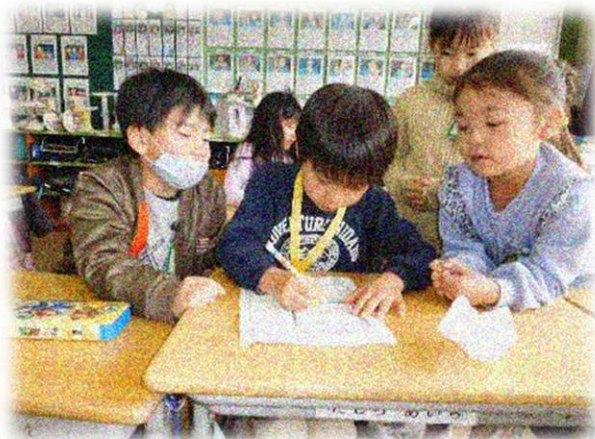
また、子ども同士の連携も行っています。

<公開授業>



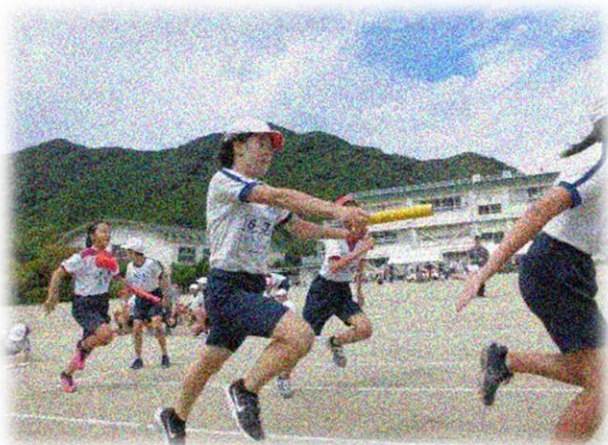
県教育委員会から指導助言者を招いて町内3校の教職員による授業研究を行います。小学校間、小学校と中学校間の教職員の連携が深まります。

<幼児と小学校の連携>



小学校1年生が幼児を学校に招いて勉強を教えます。教える方も教わる方も真剣です。それが、ほほえましい。

<小学校の連携>



町内2校の小学校の5・6年生が一堂に会して陸上記録会を行います。午後は交流会を行います。

<小中学校の連携>



小学校6年生を中学校に招いて校舎の案内や中学校生活について説明し、授業の見学や参加をします。